



全大教男女共同参画分科会と女性部総会・交流会

開催の (その1)

本格的な夏がやってまいりました。みなさまにはお変わりなくお過ごしでしょうか。9月に開催されます第28回教職集会スケジュール案が発表されましたので、みなさまにお届けいたします。どうぞみなさまご参加くださいますようお願い申し上げます。

全大教第28回教職員研究集会

日時：9月9日（金）午後1時開会 ～ 11日（日）正午閉会

場所：宇都宮大学・峰キャンパス

「深刻化・固定化する日本の階層格差
—国公立大学教職員はどう向き合えばよいのか—」

- | | |
|------------------|---------------------------|
| 1) 全体集会 | 9月 9日 13:00～同日 15:30 |
| 2) A分科会（主にテーマ別） | 9月 9日 16:00～9月 10日 12:00 |
| 3) B分科会（主に職種別） | 9月 10日 15:00～9月 11日 11:15 |
| 4) C分科会（自由セッション） | 9月 10日 12:30～同日 14:30 |
| 5) 閉会集会 | 9月 11日 11:30～同日 12:00 |
| 6) 全体交流会 | 9月 9日 18:00～同日 19:30（予定） |

A分科会としてA4「男女共同参画分科会」とA6「非常勤職員」（今年からA分科会で開催されます！！）が、またC分科会として「女性部総会・交流会」が開催される予定です。内容の詳細は決まり次第お知らせいたします。



A4:男女共同参画（内容より）

国大協は、2016年1月、「国立大学における男女共同参画推進について—アクションプラン（2016年度～2020年度）—」を取りまとめています。そこでは、「2020年までに、より高い女性教員比率の達成を目指すよう目標値を設定する。」および「学長・理事・副学長については12%以上、大学の意思決定機関等は10%以上、教授は15%以上、准教授は23%以上、課長相当職以上は17%以上と、職階ごとに達成すべき女性が占める割合の目標値を設定する。」とされています。

全大教女性部は、女性教職員の比率アップは重要であるという前提に立っていますが、そればかりが強調されることにより、むしろ女性の就業環境が悪化すること、逆差別という攻撃にさらされることを危惧します。国立大学・高専に所属する私たちにとって大切なのは、各組織のなかで男性も女性も互いに理解し合い、ワーク・ライフ・バランスに根差した男女共同参画を推進していくことです。そのために、現場の実態から検証をしていく必要があります。「男女共同参画」分科会では、例年どおり、(1) 職員・教員の男女構成比、(2) 育児・介護問題、および(3) 各単組における男女共同参画推進に関する取組について実践交流を行います。(1)・(2)は、みなさまに協力いただいている調査の集計・分析をもとに交流します。(3)については、みなさまの現場からのレポートをもとに交流を進めます。

A6:非常勤職員（内容より）

非常勤職員の問題は大学高専等全体にかかる大きな問題です。また「自身の職務に関わる問題も知りたい、職種別分科会にも参加したい」等々の希望も多くありました。そこで今年の非常勤職員分科会はA分科会で開催します。金曜日からの開催となりますが、多くの方の参加をお願いします。

非常勤職員問題の柱は①雇用期限の問題、②賃金・諸手当、休暇等労働条件の問題、③正規職員化について、④仲間づくりの4点です。今回の分科会でも①～③の3点は重要な柱ですので、レポート報告と全大教非常勤職員労働条件調査を活用し、問題の共有・情報交換を行いたいと思います。また、④仲間づくりについても、各単組で取り組まれている「要求運動・組合活動」にスポットを当て、昨年に引き続き交流を深めたいと思います。成果はもちろん大事ですが、組合の活動が見えれば仲間が増えるのではないのでしょうか。単組に持ち帰って活用できる取り組みがあるかもしれません。

毎年、レポート報告と質疑応答に時間を取られ、労働条件調査のまとめやその他の意見交換、議論の時間が短く、運動の方向性や方法などを確認することが出来ていません。そこで、今年は、レポートが提出された時点で全大教交流ルーム等に公開し、あらかじめ読んで頂けるようにと考えております。レポートについては早目のご用意をお願いいたします。活発な議論で充実した分科会にしたいと考えておりますのでみなさんのご協力をお願いいたします。

東職女性部では教研集会開催に先立ちまして、例年通り1.構成員（職員）の男女比調査、2.男女共同参画基本データ（育児・介護休暇に関する具体的数値）3.その他男女共同参画に関連した進展状況、問題点などの調査を行いました。大学本部からは5月18日に詳細な回答をいただきました。

今後発行いたします「ひまわり」紙面を利用してそのデータ全てを、教研集会終了後には、他の大学・高専と比較したまとめを皆様にお知らせできればと考えています。

東京大学内部のデータが蓄積されております。有効な活用方法を模索いたしております。これからの女性部の活動その他に関しまして、ご意見・ご要望をお寄せいただけませんか。どうぞよろしくご意見申し上げます。